

日本語の複合動詞の類義分析

康 先希

名古屋大学国際言語文化研究科大学院生

nanaoyana@hotmail.com

1. はじめに

本研究は、日本語の複合動詞「～きる」、「～つくす」、「～ぬく」、「～とおす」を対象に、各形式を考察するものである。この4つの形式は意味が類似しているが、その使い分けに関してはまだ明確にされていないところが多い。本研究では、4つの複合動詞の共通点と相違点を探り、各形式の意味を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1. 「～きる」

・森田（1977）

本動詞の意味そのまま「切り離す」行為を表す：噛み切る、断ち切る

完全にその事柄を終える「完了」の意味：読み切る、売り切る

それ以上付け加える必要はない、これで完全である：言い切る、思い切る

完全に行き着く限度まで達したという強調意識：困り切る、冷え切る

2.2. 「～つくす」

・由本（2005）

何かを無くす：葉を落としてつくした校庭の桜

ある行為を徹底的に行う：何度も調べつくした後で...

：しかし二種類の意味は連続的なものであり、区別する必要はない。

2.3. 「～ぬく」

・柴田（1976）

ある限界を突破する：やりぬく、守りぬく、考えぬく

・森田（1977）

動作性動詞に付いて、その動作を最後まで完全に行うことを意味する：生きぬく、知りぬく

状態性動詞に付いて、非常に...することを意味する：困りぬく、弱りぬく

2.4. 「～とおす」

・森田（1977）

継続行為もしくは反復行為として最後までしつづけること：言い通す、押し通す

時間性を伴わない動詞とは共起しない：*悲しみとおす、*困りとおす

対象とする事柄を徹底的に完全に成し遂げる意はない：*知りとおす

3. 本研究の目的

各形式の使い分けを述べた研究は見当たらないため、互いの相違点を明らかにする。

各語の派生関係(具体的意味から抽象的意味への転義など)を検討しながら意味の記述を試みたい。

共起可能な前項動詞の特徴と関連付けて検討する必要もあると考えられる。

4. 研究内容

4.1. 「～きる / ～つくす」

- (1) この一週間で発売された週刊誌は全て{読みきった / 読みつくした}が、これといった情報は得られなかった。
- (2) 果汁のシミは普通の洗剤では{落としきれない / ? 落としつくせない}んですよ。
- (3) 20年間{? 働ききって / 働きつくして}やっとマイホームを買うことができた。
- (4) バイトの疲れで今週の授業は全て{? 寝きって / 寝つくして}しまった。
- (5) 授業の合間に、放課後に、お互いに心の底までわかりあえるまで{? 語りきる / 語りつくす}のもいいものです。
- (6) 既に{わかりきった / ? わかりつくした}ことです。
- (7) みんな{疲れきった / ? 疲れつくした}顔だね、どうしたの?

共通点 a: 「完全に...する」

相違点: 「～きる」 最後の状態変化だけに注目している。時間の経過を伴う場合は用いられない。従って(3)の「働ききる」、(4)の「寝きる」、(5)の「語りきる」は不自然。無意志動詞と共起可能。

「～つくす」 最後の状態変化を含めて、過程にも注目している。複数のものが徐々に溜まっていく、もしくは減っていくという途中変化を含意する。無意志動詞とは共起しにくいいため、(6)の「わかりつくした」と(7)の「疲れつくした」は不自然である。

- (8) 朝仕入れた魚はその日に{売りきる / 売りつくす}ために安売りしています。
- (9) 果たして 30 人前のそばをひとりで{食べきる / 食べつくす}ことができるだろうか。
- (10) 初夏の沖縄を{? 食べきる / 食べつくす}。
- (11) 朝の 8 時から 3 時間、教科書に載っているほとんどの歌を{歌いきった / 歌いつくした}。
- (12) 昨日のカラオケでは童謡から演歌まであらゆるジャンルを{? 歌いきった / 歌いつくした}。

共通点 b: 「ゼロ・限度に至る」

相違点: 「～きる」 ゼロに至る瞬間に注目している。中間過程や経過は想定外とされる。事柄をひとつのまとまりとして認識。(12)の「あらゆるジャンル」は、ひとつのまとまりとして捉えにくいいうえ、(11)の「教科書内の歌」のような最後の区切り点がないため、「歌いきる」は不自然である。

「～つくす」 行為の持続にも注目している。行為の持続によってゼロの状態や限度に至ることができる。複数の事柄を順番にこなしていく、段階的な進行が認められる。「ゼロ」の結果だけでなく、主体が繰り返す行為の連続を表すこともできる。

4.2. 「～きる / ～ぬく」

(13) そのコースを全部 { 走りきる / 走りぬく } なんてすごいよね。

(14) 3時間 { ? 走りきって / 走りぬいて } やっとゴールインした。

(15) 探査隊は人並み以上の精神力で南極の酷寒に { 耐えきる / 耐えぬく } のです。

(16) 探査隊は人並み以上の精神力で南極の酷寒と { ? 戦いきる / 戦いぬく } のです。

共通点 a: 「最後まで...する」

相違点: 「～きる」 行為の終了時点で焦点が当てられる。「～きる」自体に「行為の終了」の意味が含まれるので、例文(14)の「走りきってゴールインする」は不自然である。

「～ぬく」 行為の過程に焦点が当てられる。途中で止めることなく行為を行い続けることに意義があり、必ずしも「行為の終了」の意を伴うとは言えない。

(17) そこまで { 困りきった / 困りぬいた } 顔をされるとこっちが困るよ。

(18) 部署の皆が考えに { ? 考えきって / 考えぬいて } 開発した商品です。

(19) とことん { ? 悩みきって / 悩みぬいて } 出した結論だから間違いはない!

(20) あいつどうやら洋子にすっかり { ? 惚れきった / 惚れぬいた } 様子だぜ。

(21) 空き地のあちこちに朽ちたベンチや { 錆びきった / ? 錆びぬいた } 自転車などが捨ておかれている。

(22) カチカチに { 冷えきった / ? 冷えぬいた } 手をコタツの下で温めた。

共通点 b: 「極度に...する」

相違点: 「～きる」 その瞬間の状態が一時的に高まっていること。極度の状態に達した時点で行為が終了する。無意志動詞（錆びる、冷えるなど）と共起可能。「～ぬく」 行為の持続の結果として極度の状態に達していること。極度の状態が必ずしも行為の終了を表すとはいえない。無意志動詞と共起不可。

4.3. 「～つくす / ～ぬく」

(23) 彼は日本一歌舞伎を { 知りつくした / 知りぬいた } 人物である。

(24) 20年間 { 働きつくして / 働きぬいて } やっとマイホームを買うことができた。

(25) 日本国内の温泉を { 行きつくして / ? 行きぬいて } その経験を本にまとめました。

共通点: 「徹底的に...する」

相違点: 「～つくす」 「事柄の蓄積や程度の変化」を経て、「極度の状態」に至る。(25)の「温泉を行きつくす」のように、同じ性質を持つ複数の事柄を制覇する意味として用いることもできる。

「～ぬく」 スタートラインからゴールまで休むことなく一直線で進むこと自体が大事とされる。「制覇」の意味は特に持たない。

4.4. 「～ぬく／～とおす」

- (26) 我々はこの方針を{守りぬく／守りとおす}一存でございます。
- (27) 頑張っ、頑張っ、{頑張りぬいた／頑張りとおした}けれど結局失敗した。
- (28) みんな{生きぬく／生きとおす}ために必死だった。
- (29) 一晩中{泣きぬいた／泣きとおした}。
- (30) 京都から名古屋間の新幹線くらい{立ちぬいた／立ちとおした}って平気ですよ。

共通点 a:「最後まで...する」

相違点:「～ぬく」途中で難関や壁を突破し、それによる成果や結果を望む傾向がある。

「～とおす」一定の状態を維持し続けることに意義がある。「～っぱなし」の意味でも用いられる。程度の変化は特に見られない。

- (31) 誰も彼の本音を{見ぬく／見とおす}ことはできなかった。
- (32) いい英会話教材を{見ぬく／見とおす}方法。
- (33) 機械を利用し、体の中を{見ぬく／見とおす}技術も開発されつつあります。
- (34) 100年先を{見ぬく／見とおす}。
- (35) 100年間を{見ぬく／見とおす}。

共通点 b:「つらぬいて察知する」

相違点:「～ぬく」中に隠れている真実を抽出する。時間の概念とは結びつきにくい、その中のある一点を指すことはできる。物事の性質を察知する場合に用いられる。

「～とおす」隠れている真実の全容がわかる。時間や空間を渡る「線」のイメージを持つ。(33)の「体の中を見とおす」のように物理的な行為そのものを指す場合もある。

5. 今後の課題

共通点 a と b の派生関係及び、区別基準や根拠を考える。

前項動詞の特徴による意味・用法の差異を考察する。

4つの項目全てに当てはまる基準・理論を確立する。

参考文献

- 柴田武他(1976)『ことばの意味』平凡社
- 柴田武他(1979)『ことばの意味』平凡社
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味』くろしお出版
- 姫野昌子(1999)『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- 森田良行(1977)『基礎日本語 意味と使い方』角川書店
- 森田良行(1994)『動詞の意味論的文法研究』明治書院
- 由本陽子(2005)『複合動詞・派生動詞の意味と統合 モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』ひつじ書房